

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1491500029
法人名	株式会社ツクイ
事業所名	ツクイ湯河原グループホーム
訪問調査日	令和5年2月28日
評価確定日	令和5年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491500029	事業の開始年月日	平成20年9月1日
		指定年月日	平成20年9月1日
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ湯河原グループホーム		
所在地	(259-0311) 神奈川県足柄下郡湯河原町福浦220-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年2月17日	評価結果 市町村受理日	令和5年4月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境で高台にあるため相模湾や伊豆半島が一望でき見晴らしは最高です。お天気の良い日には、鳥の鳴き声を聞きながら散歩や外気浴が楽しめます。また海面に打ち上げられる熱海の花火や湯河原の花火大会も施設内から見ることもできます。温暖な気候で大変過ごしやすく、静かな環境のため、室内に閉じこもることなく外に出やすい環境になっています。また医療機関との連携体制も整っており内科、皮膚科の定期往診があり、緊急時には24時間連絡が取れる体制にあり、状態に応じて緊急の往診も可能です。歯科の往診も受けることができます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和5年2月28日	評価機関 評価決定日	令和5年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、株式会社ツクイホールディングスの子会社、株式会社ツクイの経営です。同法人は神奈川県を地盤にデイサービス・訪問介護・訪問入浴・訪問看護・居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護などの在宅介護サービスから、有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅・グループホームなどの居住系サービスを展開し、様々な顧客のニーズに合わせた多様な福祉・介護サービス事業を全国で経営し、全国で700ヶ所以上の事業所を展開しています。事業所はJR東海道線「真鶴駅」から徒歩5分程の高台に位置し、天気の良い日にはリビングの大きな窓から、相模湾・初島・伊豆半島を一望することができ、夏には熱海の花火大会も楽しむことができる風光明媚な環境下にあります。
●事業所では3つの信条「①個人を尊重し”出来ること””やりたいこと”を一緒に考え励まし合い挑戦できる環境を作ります②チームワークを大切にします③地域との関わりを大切にします」を掲げています。この信条に基づき、日常生活の中で生活リハビリ(家事手伝いなど)を中心とした機能訓練やアクティビティを取り入れ、職員間で利用者の情報を共有しながら、利用者の思い・家族のニーズに沿った支援提供に努めています。
●職員の教育・研修については、入職時の研修から入社後の研修まで一貫して法人独自の研修制度「ツクスキ(新人職員向け)から「チューター」(管理者候補)研修まで、本社が主体となって取り組み、次世代の人材育成に注力しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ツクイ湯河原グループホーム
ユニット名	あやめユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1、個人を尊重し「出来ること」「やりたいこと」を一緒に考え励まし合い挑戦できる環境を作ります。2、チームワークを大切にします3、地域とのかかわりを大切にします。を合言葉に業務を行っている。各ユニット内に掲示し理念を忘れず、常に理念を目指し業務している。	事業所では3つの信条「①個人を尊重し”出来ること””やりたいこと”を一緒に考え励まし合い挑戦できる環境を作ります②チームワークを大切にします③地域との関わりを大切にします」を掲げています。この3つの信条は各ユニットに掲示し、日頃から共有しながらケアにあたっています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域のお祭りに等に参加していましたがコロナ禍では自粛中です。現在は天候の良い日には、散歩や駐車場で外の気浴を楽しんでいます。又つながりがなくならないようにドライブや参拝、などに行っています。自治会には加入しています。	ここ数年は感染症拡大防止の観点から、地域行事は現状中止となっており、交流機会は持ておりません。今後は、コロナの位置づけも変わることから、社会情勢を見ながら交流を再開したいと考えています。現状は散歩時などの挨拶程度に留まっています。地域の一員として、自治会にも加入しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は、地域の作品展への参加や、近隣の方の訪問により、事業所での生活の様子を見ていただき入居者の方とのふれあいの場にもつながっていましたが、現在は不参加です。現在は定期的に介護相談のチラシを折り込みし地域住民との繋がりを持っています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を書面にて開催し、地域包括やご家族様に現状を報告しています。	運営推進会議は2ヶ月に1回、メンバーの方々に郵送しています。事業所の現状や活動状況、職員の入退職、事故・ヒヤリハットについて報告し、何かあれば電話や手紙をいただいています。今後は、コロナの位置づけも変わることから、社会情勢を見ながら対面で開催したいと考えています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催し包括支援センターとも情報を共有している	湯河原町役場の担当者とは不透明などが生じた際に、電話やメールで相談に乗っていただき、助言などを求めています。地域包括支援センターとは、運営推進会議のメンバーとして事業所の現状などを把握していただけています。また、入居者の紹介をいただくこともあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な内容で繰り返し研修を行っている。ホームの玄関は、外からの部外者の侵入を防ぐために安全面から施錠の希望もあり、行っている。お客様の生活スペースの施錠はしていません。	身体拘束については、法定研修に定められており、年1回以上の研修を行っています。毎年の研修計画にも「身体拘束」についてはテーマとして盛り込んでおり、繰り返し研修を行うことで、身体拘束の弊害・種類・定義について知識と理解を深めるように取り組んでいます。玄関の施錠については、防犯上の理由から施錠しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックなどについても繰り返し研修行っている。カンファレンス時など、お互いのケア内容について、話し合える場を作っている。ストレスを貯めない、ストレス解消法についても議題に出して虐待につながらないようなケアを心がけている。	高齢者虐待防止については、身体拘束と同様に法定研修に定められており、身体拘束と併せて年1回以上の研修を行っています。毎年の研修計画にも「高齢者虐待」についてはテーマとして盛り込んでおり、繰り返し研修を行うことで、虐待の弊害・種類・定義について知識と理解を深めるように取り組んでいます。カンファレンスの中でもスピーチロックや、アンガーマネジメントについて話し合い、虐待防止に努めています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際青年後見人制度を利用している方もいます。行政書士の方との会話の中で学ぶことも多くあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してあらかじめ時間がかかることを伝えており了承を得ています。また契約書などを事前にお渡し熟読していただいた上で説明させていただき、疑問点などについてさらに説明させていただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などでご意見ご要望などを確認している。「食事の内容が知りたい」とのご意見がありましたので、献立表を掲示しました。不参加の方からもご意見をいただけるように出欠席の返信用紙にご意見を記入できるようにしている。	重要事項説明書に明記している苦情相談窓口について、契約時に説明し、家族に周知しています。家族からの意見や要望は、電話やメール・来訪時に伺うようにしていますが、現在は面会を制限している関係で電話やメールでの聴き取りが主となっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンスなどで話し合いの場を設け、意見を言いやすいような環境を整えオープンな形で決議している。個別面談などで、時間をとって意見を聞く場合もある。	職員の意見・提案は全体会議やカンファレンスのみならず、日常的(職員の出勤、休憩、ラウンドした際)にも意見や提案を聴くようにしています。他の人の前で発言しにくい方、夜勤専従の職員からは個別に話を聴く機会を設けたり、ノートなどでも吸い上げるよう工夫しています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員登用や時給アップ、内部、外部研修のお知らせなどを回覧し希望者は参加できるよう呼びかけている。	入職時には就業規則に基づき(勤務・服務・休暇等の規則や規定について説明しています。法人ではキャリアアップ支援制度をはじめ、育児・介護サポート・心と健康のサポート(従業員相談窓口)・処遇改善加算の取得など、職員が向上心を持って働ける職場の環境整備に注力しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で行っている研修に積極的に参加を促す。資格取得制度の活用	法人本社に研修専門の部門があり、年間計画の基に事業別・経験年数別研修も行われ、職員の能力に応じた研修により、全体的な資質向上に努めています。入職時には法人理念・基本方針・職員としての心構え・介護の基礎研修も行っています。業務の流れや利用者の情報は、OJTにて指導・教育を行っています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	湯河原町の他のグループホームの管理者とは定期的に情報交換をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が納得いただけるように、本人の意向を一つずつ丁寧に伺い、本人のペースに合わせて生活リズムを作っていける様、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	分からない事、不明な事があれば、納得できるまでわかりやすく説明し、信頼を得られるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントにおいて抽出された課題と、本人・家族の意向を把握し、それらに添った支援計画に基づいてサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを受け入れた上で、職員が共感しながら、共に過ごせる生活の場となっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には日頃から本人の体調や生活の様子などを伝え、変化や本人の希望などあれば、家族を交えて対応について協議している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、お互いに心地よく過ごして頂ける様な空間を設定している。外部の催しなど楽しみにしている行事への参加を支援している。ご友人やご近所の方などの面会もあり入所後も継続して交流が出来るように支援している。	入居前面談にて本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などに関する情報を聴き取り、入居によって、本人がこれまで大切にしてきた人間関係や馴染みの場所との関係が途切れないよう支援しています。現在は家族を含めて面会制限していることから、電話や手紙の取次ぎで支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事や、レク・体操が、CDを聴きながら、安心して過ごせる居心地のいい時間となっている。その中で、お互いを気遣う声の掛け合いも良くみられる。状況に応じて席配置を換えたり、色々な方と交流が出来るように定期的に席を替える場合もあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	たとえば入院のため契約終了になった方などは、お見舞いに行ったりする場合があります。ご家族からの連絡があった場合は、その都度対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	計画作成・更新時はもちろん、日々、本人の希望に添った生活を支える為に、意向を伺い、必要な支援を提供している。ご本人の意向の確認が困難な場合は、後見人の方に意向など確認しながら行っています。	入居時に本人・家族・介護支援専門員から生活歴・既往歴・趣味・嗜好・暮らし方の希望について聞き取りながらアセスメントシートを作成しています。入居後はアセスメントの情報を基にの関わりながら、利用者から得られた情報を共有しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時ご本人、ご家族または入院中であれば病院などから直接アセスメントを行い生活歴・生活環境・サービス利用歴などを把握し入所後の生活がスムーズに行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズムや、ADLの状態を把握し食事量、水分量、排泄の状態、夜間の様子など記録し、変化があれば職員間で、申し送りや共有ノートで情報共有している。毎月個別カンファレンスを行い、職員間の情報を共有している。居室担当が1ヶ月の様子などをまとめて議題として提出する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の課題に対する本人・家族の意向をもとに、スタッフ・ミーティングで定期的にモニタリングを行い、介護計画書に反映している。計画を作る時点で、ご本人、ご家族の意向を確認している。確認できない場合は、表情や、生活歴などから想像し作成しています。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し、暫くの間は経過を見ながら差異が無いか等の情報を収集しています。情報と差異があれば随時見直しを行いながら現状に即した介護計画を作成しています。毎月のミーティング時にモニタリングを実施し、現状に即した支援計画となっているか話し合ったうえで介護計画の見直しにつなげています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、ケアの実践・結果を、本人の気持ちを表現した言葉も含めて記述し、現状を把握している。その中から抽出された課題は、毎日の申し送り時など適宜、支援内容を協議し、対応内容について共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族に状態の変化があれば即応して、それらを職員と情報共有し、支援体制を整える。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域ボランティアの活用や自治会の行事などに参加や、町内の作品展に作品を提出し、介護予防講座に参加していました。コロナ禍でもできる資源をみつけ支援していきたいと考えています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診している方もいます。また専門医などの受診を希望される方もいますのでご家族対応で行っています。受診後は、内容をお聞きして情報を共有しています。	入居時に協力医療機関について説明し、協力医療機関に切り替えることのメリットなどを説明したうえで主治医を決めていただくようにしています。以前からのかかりつけ医での受診を希望される場合は家族対応を基本としています。事業所の協力医に切り替えている方は、月2回の訪問診療を受けています。看護師とは24時間体制のオンコールの他、週1回利用者の健康管理があります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連絡が取れる体制になっている。週1回訪問があり、相談したり、情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院中も医療機関とは在宅サマリーなどで情報の共有に努めている。また退院時もカンファレンスなども参加している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約時に重度化した場合の指針を説明している。入居後もご本人の状態に合わせて医療機関とご家族も含めて話し合いを行っています。	入居時に、重度化した場合の指針を基に説明し、延命治療と終末期の意向を確認しています。入居後は本人の状態変化に応じて、家族・主治医・管理者による話し合いの場を設け、種々様々な選択肢を提示し、今後の方針について情報を共有しています。事業所での看取りを希望される場合には、穏やかな最期を迎えられるようチームとして支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	往診医の緊急コール表を各ユニットの連絡しやすい位置に掲示している。職員の連絡網を整備し訓練を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っています。災害マニュアルをもとに研修し、危機感を持って業務している。	事業所では様々な災害を想定した「災害マニュアル」を作成しており、マニュアルを基に防災訓練を年2回実施しています。備蓄は、水や食糧・懐中電灯・ラジオ・担架などに加え、自家発電機もあります。さらに、BCPも策定し、定期的な見直し及び職員に対して周知と研修・訓練を行うとしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入るときは、ロックして入っている。呼び方もちゃん付けなどせず、目上の方に接するように節度を保つようにしています。	年間研修において、接遇・マナー・倫理をテーマにした研修を年1回行っている他、気になる言動等が聞かれた際には、その都度注意したり、ミーティングでも取り上げ、再認識を図るようにしています。また、個人情報や守秘義務についても周知徹底しています。居室への入室、排泄支援を行う際にはプライバシーや羞恥心に配慮して対応しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べる物や飲み物など二者選択できるような質問をして自己決定できるようにすることが多い。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の流れは決まっているが、ご本人の意向を確認しながら行っている。入浴なども、日にちを変更している。入床、起床時間もご本人の状態に合わせています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の洋服選びは可能な方は、職員と一緒に行っている。すべてご自分で出来る方は自分で行っています。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事やお誕生日など食べたいものをお聞きして提供することもあります。食事中は音楽を流しなどゆったりと食事を楽しめる環境を作っている。盛り付け、片付けなどは手伝っている。	栄養士により、カロリーと栄養計算された物を法人で一元化して献立と食材を調達しています。食器洗い、食器拭き等のご自身で出来ることは手伝っていただき、残存能力の維持につなげています。誕生日や行事の時には、利用者から希望を伺い、提供することもあります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の摂取量を個別に記録しています。水分量も個別に記録し、一日の水分摂取量の合計も出しています。残した量や形態などから適量や適した食事形態に問題が無いのかなど検討材料にしている。体重管理も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけし、本人の状態に合わせて、行っている。ご自分で出来ていても、確認し不十分ところは声かけしたり介助させていただいている。個人用の義歯入れや歯ブラシコップ、歯磨き粉があります。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状態が悪化してきてオムツ対応になっても状態改善されれば、リハビリパンツに戻しトイレで排泄が出来るように支援しています。夜間もトイレの声かけをし、トイレでの排泄を促している。	利用者全員の排泄表をつけ、1人ひとりの排泄パターンの把握に努めています。可能な限りトイレで排泄できるよう、時間やタイミングを見計らった声掛けや誘導を行っています。ユニット会議やカンファレンスで適した排泄支援方法を検討し、トイレでの排泄につなげるよう支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な運動や水分量の把握、ゆっくりトイレに座る時間をとり排便を促す。バランスの良い食事の提供を心がけています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には入浴の曜日は決まっているが、本人の希望を確認し柔軟に対応している。入浴剤などを使用し見た目や香りなどで楽しめるように工夫している。	基本的には、週2回入浴の支援を行っています。予定表以外でも、本人の希望や体調を考慮し、柔軟な対応を行い、気持ちよく入浴していただけるよう配慮しています。同性介助の希望にも対応しています。入浴剤や柚子湯、菖蒲湯なども取り入れ、楽しめるよう工夫しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も決まっていないので、ご自分で居室に戻るまでは、リビングで皆様と過ごしています。日中も居室で休まれる方もおりますが、ご自分の意思で居室で休んでいます。状態に応じては入床の声かけや、夜間の睡眠を十分にとっていただけるように日中の離床を声かけたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容などを把握し、名前、日にち、朝、昼、夕など複数で確認し服薬介助を行っている。服薬後の状態の変化や急変時の服薬については、主治医などに確認し行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時生活歴など詳しくお聞きして、入所後も継続して、入所前の生活が出来るようにしている。食堂で働いていた方などは、食器洗いなど台所仕事など手伝えるように声かけしている。あくまでも押し付けではなく、手伝えることにより充実感を味わっていただけるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花がきれいな季節はお花見ドライブを。行けない方の為に一緒に花を買ってきて、花壇で季節の花を楽しんでいただいています。家族に遭いたいと希望があった際にはご自宅までドライブしご家族様に会える時間を作っています。	日常的な外出支援では、事業所の駐車場で外気浴を行ったり、周辺を散歩するなどして、気分転換につなげています。コロナ禍で地域行事は中止となっていますが、車からの花見ドライブなどを計画し、外部の人との接触を避けながら、季節感を感じていただくようにしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預かることは会社の方針で行っておりません。ご家族との外出時に、使用しているかもしれません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいます。ご自分でご家族にかけてお話をされています。ご操作が不慣れな方に対しては、職員が仲介して会話が出来るようにしています。ご家族様と話したい方は職員が電話を取り次いでいます。	/	
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除の徹底や汚物ゴミなどふたのあるゴミ箱を使用している。季節に合わせた壁の装飾やお花などを置いて、目で楽しめるようにしている。日差しが強い時は、カーテンを閉め遮光し、室温にも注意しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々席配置を変えて色々な方との交流の機会を作ったり、ソファを置いてゆったりくつろげる空間を作ったりしています。	/	
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたタンス、ベッドなど使い慣れた物を使用させていただいています。またお仏壇を持ち込んでいる方もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様が率先してお手伝いができるように、お客様主体の活動を増やしています。掃除、洗濯干し、食器拭き等はお客様が行えるようにご案内しています。	/	

目 標 達 成 計 画

事業所 ツクイ湯河原グループホーム

作成日 令和5年2月28日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	7	○虐待の防止の徹底	虐待、身体拘束、不適切ケアゼロを目指す	毎月カンファレンスにて虐待、身体拘束、不適切ケアの振り返り	1 2 か月
2	21	○日常的な外出支援	お客様が行きたい場所、季節感を感じれる場所に外出する	お客様が行きたい場所の把握。季節が感じれる場所に援助にてお連れすることができるようになる。	1 2 か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	ツクイ湯河原グループホーム
ユニット名	あじさいユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1、個人を尊重し「出来ること」「やりたいこと」を一緒に考え励まし合い挑戦できる環境を作ります。2、チームワークを大切にします3、地域とのかかわりを大切にします。を合言葉に業務を行っている。各ユニット内に掲示し理念を忘れず、常に理念を目指し業務している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域のお祭りに等に参加していましたがコロナ禍では自粛中です。現在は天候の良い日には、散歩や駐車場での外気浴を楽しんでいます。又つながりがなくならないようにドライブや参拝、などに行っています。自治会には加入しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は、地域の作品展への参加や、近隣の方の訪問により、事業所での生活の様子を見ていただき入居者の方とのふれあいの場にもつながっていましたが、現在は不参加です。現在は定期的に介護相談のチラシを折り込みし地域住民との繋がりを持っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を書面にて開催し、地域包括やご家族様に現状を報告しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催し包括支援センターとも情報を共有している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な内容で繰り返し研修を行っている。ホームの玄関は、外からの部外者の侵入を防ぐために安全面から施錠の希望もあり、行っている。お客様の生活スペースの施錠はしていません。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックなどについても繰り返し研修行っている。カンファレンス時など、お互いのケア内容について、話し合える場を作っている。ストレスを貯めない、ストレス解消法についても議題に出して虐待につながらないようにケアを心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際青年後見人制度を利用している方もいます。行政書士の方との会話の中で学ぶことも多くあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してあらかじめ時間がかかることを伝えており了承を得ています。また契約書などを事前にお渡し熟読していただいた上で説明させていただき、疑問点などについてさらに説明させていただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などでご意見ご要望などを確認している。「食事の内容が知りたい」とのご意見がありましたので、献立表を掲示しました。不参加の方からもご意見をいただけるように出欠席の返信用紙にご意見を記入できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンスなどで話し合いの場を設け、意見を言いやすいような環境を整えオープンな形で決議している。個別面談などで、時間をとって意見を聞く場合もある。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員登用や時給アップ、内部、外部研修のお知らせなどを回覧し希望者は参加できるよう呼びかけている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で行っている研修に積極的に参加を促す。資格取得制度の活用		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	湯河原町の他のグループホームの管理者とは定期的に情報交換をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が納得いただけるように、本人の意向を一つずつ丁寧に伺い、本人のペースに合わせて生活リズムを作っていける様、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	分からない事、不明な事があれば、納得できるまでわかりやすく説明し、信頼を得られるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントにおいて抽出された課題と、本人・家族の意向を把握し、それらに添った支援計画に基づいてサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを受け入れた上で、職員が共感しながら、共に過ごせる生活の場となっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には日頃から本人の体調や生活の様子などを伝え、変化や本人の希望などあれば、家族を交えて対応について協議している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、お互いに心地よく過ごして頂ける様な空間を設定している。外部の催しなど楽しみにしている行事への参加を支援している。ご友人やご近所の方などの面会もあり入所後も継続して交流が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事や、レク・体操が、CDを聴きながら、安心して過ごせる居心地のいい時間となっている。その中で、お互いを気遣う声の掛け合いも良くみられる。状況に応じて席配置を換えたり、色々な方と交流が出来るように定期的に席を替える場合もあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	たとえば入院のため契約終了になった方などは、お見舞いに行ったりする場合もあります。ご家族からの連絡があった場合は、その都度対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	計画作成・更新時はもちろん、日々、本人の希望に添った生活を支える為に、意向を伺い、必要な支援を提供している。ご本人の意向の確認が困難な場合は、後見人の方に意向など確認しながら行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時ご本人、ご家族または入院中であれば病院などから直接アセスメントを行い生活歴・生活環境・サービス利用歴などを把握し入所後の生活がスムーズに行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズムや、ADLの状態を把握し食事量、水分量、排泄の状態、夜間の様子など記録し、変化があれば職員間で、申し送りや共有ノートで情報共有している。毎月個別カンファレンスを行い、職員間の情報を共有している。居室担当が1ヶ月の様子などをまとめて議題として提出する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の課題に対する本人・家族の意向をもとに、スタッフ・ミーティングで定期的にモニタリングを行い、介護計画書に反映している。計画を作る時点で、ご本人、ご家族の意向を確認している。確認できない場合は、表情や、生活歴などから想像し作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、ケアの実践・結果を、本人の気持ちを表現した言葉も含めて記述し、現状を把握している。その中から抽出された課題は、毎日の申し送り時など適宜、支援内容を協議し、対応内容について共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族に状態の変化があれば即応して、それらを職員と情報共有し、支援体制を整える。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域ボランティアの活用や自治会の行事などに参加や、町内の作品展に作品を提出し、介護予防講座に参加していました。コロナ禍でもできる資源をみつけ支援していきたいと考えています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診している方もいます。また専門医などの受診を希望される方もいますのでご家族対応で行っています。受診後は、内容をお聞きして情報を共有しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連絡が取れる体制になっている。週1回訪問があり、相談したり、情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院中も医療機関とは在宅サマリーなどで情報の共有に努めている。また退院時もカンファレンスなども参加している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約時に重度化した場合の指針を説明している。入居後もご本人の状態に合わせて医療機関とご家族も含めて話し合いを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	往診医の緊急コール表を各ユニットの連絡しやすい位置に掲示している。職員の連絡網を整備し訓練を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っています。災害マニュアルをもとに研修し、危機感を持って業務している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入るときは、ノックして入っている。呼び方もちゃん付けなどせず、目上の方に接するように節度を保つようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べる物や飲み物など二者選択できるような質問をして自己決定できるようにすることが多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の流れは決まっているが、ご本人の意向を確認しながら行っている。入浴なども、日にちを変更している。入床、起床時間もご本人の状態に合わせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の洋服選びは可能な方は、職員と一緒にしている。すべてご自分で出来る方は自分で行っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事やお誕生日など食べたいものをお聞きして提供することもあります。食事中は音楽を流しなどゆったりと食事を楽しめる環境を作っている。盛り付け、片付けなどは手伝っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の摂取量を個別に記録しています。水分量も個別に記録し、一日の水分摂取量の合計も出しています。残した量や形態などから適量や適した食事形態に問題が無いのかなど検討材料にしている。体重管理も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけし、本人の状態に合わせて、行っている。ご自分で出来ていても、確認し不十分なところは声かけしたり介助させていただいている。個人用の義歯入れや歯ブラシコップ、歯磨き粉があります。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状態が悪化してきてオムツ対応になっても状態改善されれば、リハビリパンツに戻しトイレで排泄が出来るように支援しています。夜間もトイレの声かけをし、トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な運動や水分量の把握、ゆっくりトイレに座る時間をとり排便を促す。バランスの良い食事の提供を心がけています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には入浴の曜日は決まっているが、本人の希望を確認し柔軟に対応している。入浴剤などを使用し見た目や香りなどで楽しめるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も決まっていないので、ご自分で居室に戻るまでは、リビングで皆様と過ごしています。日中も居室で休まれる方もおりますが、ご自分の意思で居室で休んでいます。状態に応じては入床の声かけや、夜間の睡眠を十分にとっていただけるように日中の離床を声かけたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容などを把握し、名前、日にち、朝、昼、夕など複数で確認し服薬介助を行っている。服薬後の状態の変化や急変時の服薬については、主治医などに確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時生活歴など詳しくお聞きして、入所後も継続して、入所前の生活ができるようにしている。食堂で働いていた方などは、食器洗いなど台所仕事など手伝えるように声かけしている。あくまでも押し付けではなく、手伝うことにより充実感を味わっていただけるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花がきれいな季節はお花見ドライブを。行けない方の為に一緒に花を買ってきて、花壇で季節の花を楽しんでいただいています。家族に遭いたいと希望があった際にはご自宅までドライブしご家族様に会える時間を作っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預かることは会社の方針で行っておりません。ご家族との外出時に、使用しているかもしれません。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいます。ご自分でご家族にかけてお話をされています。ご操作が不慣れな方に対しては、職員が仲介して会話ができるようにしている。ご家族様と話したい方は職員が電話を取り次いでいます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除の徹底や汚物ゴミなどふたのあるゴミ箱を使用している。季節に合わせた壁の装飾やお花などを置いて、目で楽しめるようにしている。日差しが強い時は、カーテンを閉め遮光し、室温にも注意しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々席配置を変えて色々な方との交流の機会を作ったり、ソファを置いてゆったりくつろげる空間を作ったりしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたタンス、ベットなど使い慣れた物を使用していただいています。またお仏壇を持ち込んでいる方もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様が率先してお手伝いができるように、お客様主体の活動を増やしています。掃除、洗濯干し、食器拭き等はお客様が行えるようにご案内しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所 ツクイ湯河原グループホーム

作成日 令和5年2月28日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	7	○虐待の防止の徹底	虐待、身体拘束、不適切ケアゼロを目指す	毎月カンファレンスにて虐待、身体拘束、不適切ケアの振り返り	1 2 か月
2	21	○日常的な外出支援	お客様が行きたい場所、季節感を感じれる場所に外出する	お客様が行きたい場所の把握。季節が感じれる場所に援助にてお連れすることができるようになる。	1 2 か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。